

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅲ

座長： 昭和大学 小川 良雄

12. 維持透析患者の皮膚癢痒症に対する
消風散の使用経験稲垣医院¹⁾、いぶきクリニック²⁾○稲垣 哲典¹⁾、福田 豊史²⁾、矢島 息吹²⁾

長期血液透析に伴う皮膚合併症として、皮膚癢痒症、色素沈着、石灰沈着、皮下出血などが挙げられる。その中で皮膚癢痒症とは癢痒のみで発疹の見られない病態をいい、透析患者の約70～80%に見られる。その原因と考えられているのは尿毒症物質の蓄積、皮膚乾燥、アレルギー反応、電解質異常の関与、末梢神経障害など多岐でしかも重複することがあり、治療に難渋することも多い。多くの症例では布団の中など体感温度が高い時や、透析中や透析後に症状が悪化する。

治療として通常は保湿、電解質補正(二次性副甲状腺機能亢進症の治療を含む)、抗アレルギー薬、透析膜や回路の変更、透析液温の調整などで対処しているが、今回これらによる治療抵抗性の症例に対して東洋医学的アプローチを行った。

【対象と方法】2016年9月～2017年1月に皮膚癢痒症の5症例(男性4名、女性1名)に対し証を検討の上、ツムラ消風散エキス顆粒7.5g/日を投与、2週間ごとに症状の推移を観察した。

【結果】投与6週間の時点で、1例は症状が消失し廃薬(0/10)、3例は癢痒感が投与前の4～6/10に改善、1例は8/10とわずかな改善にとどまった。

【まとめ】透析患者の慢性の皮膚癢痒症に対して当帰飲子や黄連解毒湯、温清飲などの有用性が報告されているが、本報告では布団に入った時や入浴後など体感温度の上昇時に症状が悪化していることに注目し、清熱の効能がある石膏を含有する消風散を選択した。本処方方は外科正宗に収載されており、内熱があり分泌物強く癢痒の甚だしいものに用いるとされ、夏季に悪化する皮膚病によく用いられる。今回提示した症例では半数以上で有効であり、1例では廃薬できていることから、本処方が透析患者の皮膚癢痒症の治療の一助となる可能性がある。また、維持血液透析という古代には存在しない新たな「証」の可能性についても東洋医学的な検討の余地があると思われる。透析患者への適正な投与量や他の漢方製剤の投与などに関して若干の文献的考察も含め報告する。